

6月7日「緑内障を考える日」記念  
『緑内障ホットライン』7日間で192件の相談  
治療していても不安がぬぐいきれず。精神的ケアの必要性も浮き彫りに

緑内障の患者組織である緑内障フレンド・ネットワーク(代表:柿澤映子 会員数:1,641名)は、6月7日の「緑内障を考える日」を記念して、5月25日、27日、29日、6月2日、4日、6日、7日の7日間、緑内障に関する相談、悩みにお答えする「緑内障ホットライン」を開設しました。7日間で計192件もの相談が寄せられ、自身も緑内障である患者会員さんが相談者の切実な悩み、不安にお答えしました。また、相談者の約91%は、患者さんご本人からでした。

ホットラインでの相談内容を集計した結果、以下の点が明らかになりました。

■相談内容で最も多かったのは“失明”や“視野欠損の進行”に対する不安

相談内容で最も多かったのは、失明に対する不安、視野欠損の進行に対する不安など「病気に対する不安」が全相談者の53.6%にあたる103件でした。具体的な相談内容は、「失明するのがとにかく怖い」、「視野欠損が進行するのが不安」、「緑内障と診断されて気持ちが落ち込んでいる」など、自身の病状や進行状況などについて身近に相談できる人がおらず、不安を持っている方が多いことがうかがえます。

■本来であれば先生に尋ねたい“緑内障について知りたい”など病気についての相談

次いで多い相談内容は、緑内障のことを知りたいなどの「病気について」の相談28.6%(55件)でした。具体的な相談内容は、「病気について詳しく知りたい」、「正常眼圧緑内障でも眼圧を下げる必要があるのか」など、本来は医師に尋ねたいが、実際には聞けていない疑問や不安の相談でした。

■病気の進行に対する不安が“現在受けている治療への不安”に

「現在受けている治療への不安」も多く、21.4%(41件)でした。具体的な相談内容は、「半年後に視野検査をされると言われたが、その間視野欠損が進行しないか不安」、「1年間通院して、治療法が変わらないのでこのままで大丈夫か不安」など、きちんと治療を受けている一方で、病気の進行に対してぬぐいきれない不安があることが浮き彫りになりました。

今回の結果を受け、野田泰秀事務局長は「患者さんは失明や視野欠損の進行に対して大きな不安を抱えています。『適切に治療を受けていれば必要以上に恐れることはない』という精神的な面でのフォローの必要性も浮き彫りになりました。今後もこのような活動を通じ、緑内障に関する正しい情報の提供、悩みや不安の共有、アドバイスなどを継続して行い、一人でも多くの緑内障で悩む方のお力になれるよう努めて参ります」と述べています。

---

#### ■緑内障とは

緑内障は眼球の中の圧力(眼圧)が上昇することにより視神経が損傷を受け、視野(見える範囲)が徐々に欠けていき、放置すると失明する危険性がある病気です。日本では40歳以上の20人に1人が発症していると言われ、視覚障害(中途失明)の原因の第1位となっています。特にNTG(Normal Tension Glaucoma:正常眼圧緑内障)という眼圧が正常値にも関わらず視野が欠けていく緑内障のタイプが緑内障全体の約7割を占めていると言われていています。NTGは眼圧検査だけでは発見できず、眼底検査、視野検査が診断の為に必要です。約8割から9割の患者が未受診と言われ、失明を未然に防ぐためには、早期発見、早期治療が大変重要です。

#### ■緑内障フレンド・ネットワーク <http://www.gfnet.gr.jp/>

緑内障フレンド・ネットワークは、2000年6月1日に設立された緑内障の患者組織です。緑内障の患者、家族・身内に患者のいる人、活動に賛同する個人、団体、企業などによって構成されています。代表には、自身も緑内障で、これまでも緑内障の知識普及のために活動を続けてきた柿澤映子が就任し、緑内障の研究と治療に長年携わってきた北澤克明・日本緑内障学会 前理事長が代表顧問としてサポートしています。また本ネットワークは、世界緑内障患者協会(WGPA)の一員として日本緑内障学会、日本眼科医会からも支持を得ています。

これまでに、緑内障ホットラインの運営、ホームページの開設、東京都や厚生労働省への陳情、書籍の出版、会員の集い、会報の発行、患者手帳の発行、一般の方々への啓発活動等を行っております。

---

#### 本リリースに関する報道機関からのお問い合わせ

緑内障フレンド・ネットワーク事務局

〒103-0027 東京都中央区日本橋 1-2-16-501

TEL:03-3272-6971 FAX:03-3272-6972

<http://www.gfnet.gr.jp> e-mail: [info@gfnet.gr.jp](mailto:info@gfnet.gr.jp)

## 【参考資料】

### 「緑内障ホットライン」相談内容の集計結果

#### I.概要

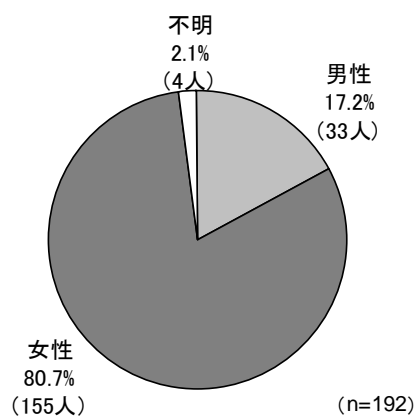
開設期間： 2009年5月25日、27日、29日、6月2日、4日、6日、7日 計7日間  
開設時間： 10：00～16：00  
相談件数： 192件（27.4件／日）  
電話回線： 2回線  
対応時間： 1人平均30分  
相談員： 30代～70代の男女の患者22名（会員）

#### II.内訳

##### 1)相談者の性別

相談者の80.7%が女性でした。男性の約4.7倍となっており、女性の方が病気についてより高い関心を持ち、行動されていることがわかります。

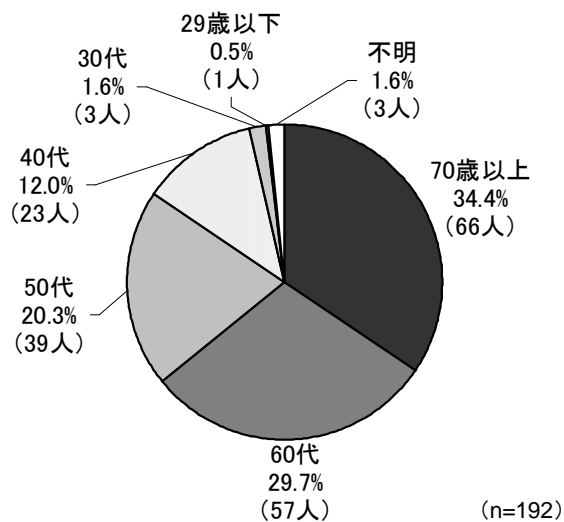
<相談者の性別>



##### 2)相談者の年齢

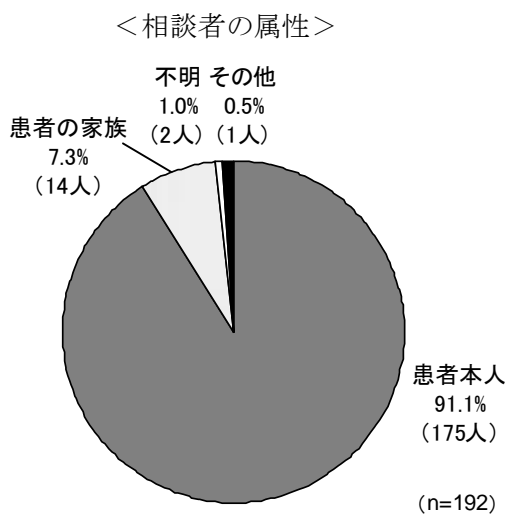
70歳以上が34.4%、60代が29.7%、50代が20.3%と続き、40代の相談者数は12.0%にとどまっています。

<相談者の年齢>

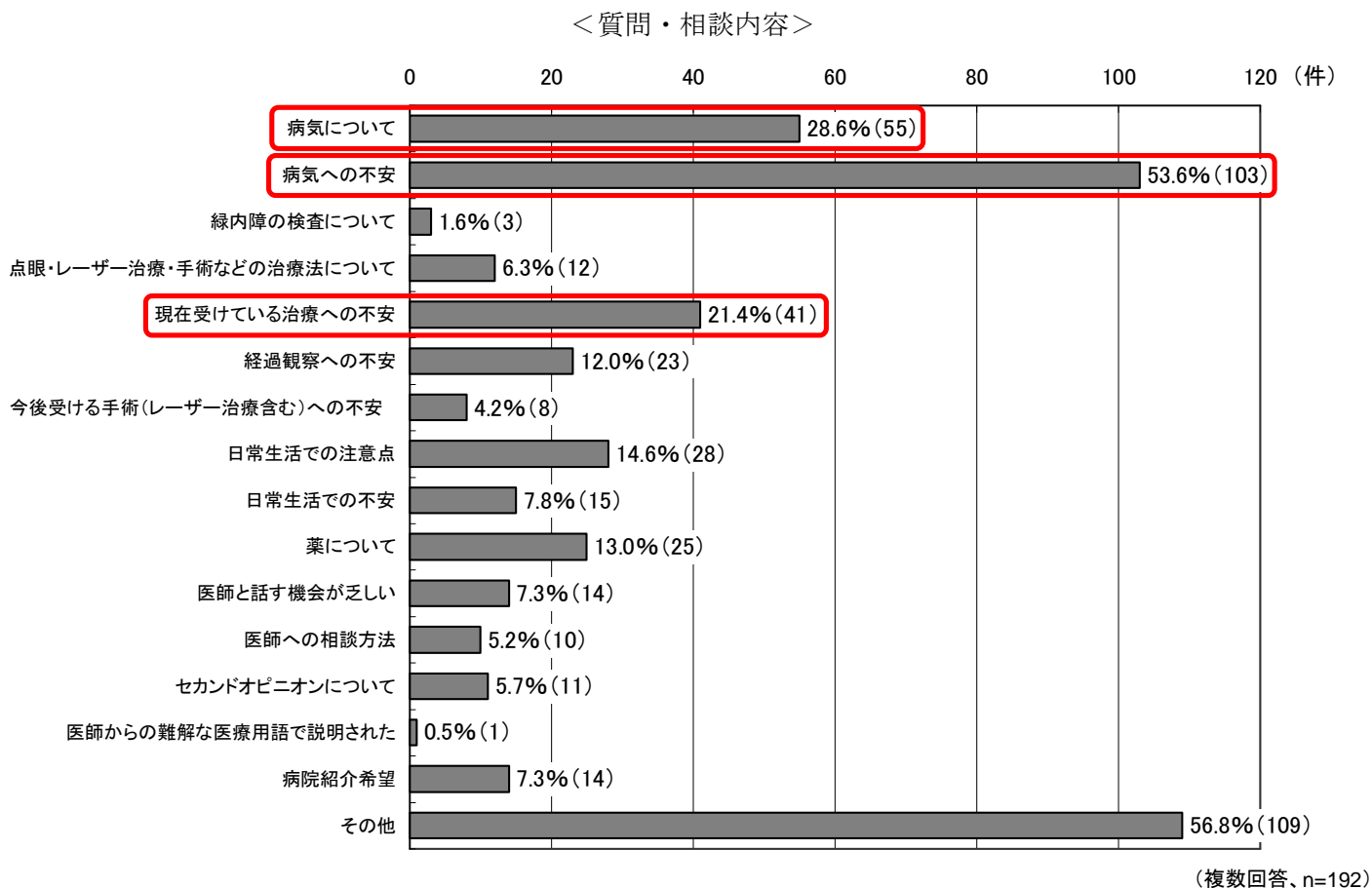


### 3) 相談者の属性

「患者本人」からの相談が 91.1%を占めています。現在医師の治療を受けている患者でも、緑内障について疑問や不安を抱えている方が多いことがうかがえます。



### 4) 質問・相談内容



## ※質問・相談項目について

- 病気について…緑内障について知りたい、など
- 病気への不安…失明に対する不安、進行した場合の不安、など
- 緑内障の検査について…検査の内容、どこで受けられるか、自己チェック方法、など
- 点眼・レーザー治療・手術などの治療法について
  - …具体的な方法、メリット・デメリット、など
- 現在受けている治療への不安…点眼薬、手術、レーザー治療、など
- 経過観察への不安…様子見と言われたが不安、など
- 今後受ける手術(レーザー治療含む)への不安…手術が怖い、など
- 日常生活での注意点…食事、運動、仕事や嗜好品についての制限、など
- 日常生活での不安…仕事をしたいが不安、外出するのが不安、など
- 薬について…治療薬の変更、種類、点眼回数、など
- 医師と話す機会が乏しい…医師が一方向的に話をしてこちらの話を聞いてくれない、など
- 医師への相談方法…医師にどう伝えてよいか分からない、など
- セカンドオピニオンについて…セカンドオピニオンを受けるべきか、など
- 医師からの難解な医療用語で説明された…よく理解できない言葉で説明された、など
- 病院紹介希望…病院を紹介して欲しい、など

## 5) 具体的な相談内容(抜粋)

病気について	…病気について詳しく知りたい 正常眼圧緑内障でも眼圧を下げる目薬をささないといけないのか
病気への不安	…失明するのがとにかく怖い 視野欠損の進行が不安 緑内障と診断されて気持ちが落ち込んでいる 緑内障の可能性があるといわれて今後が不安
治療法について	…点眼薬以外の治療法について知りたい
現在受けている治療への不安	…半年後に視野検査をされると言われたが、その間視野欠損が進行しないか不安 1年間通院して、治療法が変わらないのでこのままで大丈夫か不安
今後受ける手術への不安	…レーザー治療後、また眼圧が上がるようなら手術と言われて不安 点眼薬だけでは視野欠損が止められず手術と言われて不安
日常生活の注意点	…緑内障の悪化を防ぐ方法はあるか知りたい サプリメントや民間療法は効果があるのか知りたい
日常生活の不安	…ひとり暮らしなので老後が心配
薬について	…他の薬との飲み合わせについて 今使っている点眼薬の副作用について 薬の有効期限について
医師	…病院によって診断結果がちかう 先生が忙しそうなので話を聞くのを遠慮してしまう 心配事に対して納得できるような説明やケアをしてくれない

病 院 紹 介

…緑内障の専門病院を教えてください  
自宅から近い病院を紹介して欲しい

そ の 他

…患者の仲間を作りたい  
緑内障フレンド・ネットワークに入会したい  
自分は緑内障ではないが、身内に緑内障の人がいるので心配

以上